

# 安心でできる居場所を

## 若者自立支援する集い 横須賀

子どもや若者の多様な生き方を応援する市民団体「子ども若者応援団」が8日、横須賀市総合福祉会館（本町）で、「ひきこもりからの生きなおし」と題した集いを開いた。60人余りが参加した。

横浜市内の若者向け自立・就労支援施設で相談員を務める岡本圭太さんが講演。就職活動の失敗をきっかけに、大学在学中から25歳ごろまでひきこもりを経験した。「いい大学を出て、いい会社に入らなければと

いう考えに疑いを持っていなかった。選択肢がなかったからそうなってしまう、つらいの一言だった」と振り返った。

道に迷った岡本さんは当時通っていた病院で理解ある医師らと出会ったという。「病院に限らず、ひきこもりの当事者

者が安心して所属できる居場所があれば抜け出せる」。気の置けない仲間が一人でもできれば、立ち直るきっかけになり得るとアドバイスした。

集いのコーディネーターで、教員やNPOなどの立



「ひきこもりを理解してくれる居場所が必要」と話す岡本さん（右）  
＝横須賀市総合福祉会館

場からいじめや不登校、ひきこもりの子どもを支援してきた滝田衛さんは「家族だけの問題ではない。日常にある危機として一人一人が考えるべきだ」と強調した。

岡本さんは「ひきこもりは決して、甘えていたり怠けたりしているわけではない。それを分かってほしい」と訴えた。

（織田 匠）